

第46回日本関節病学会報告

The 46th Japanese Society for Joint Diseases

会長 尾崎 敏文 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 整形外科科学)

Toshifumi Ozaki (Department of Orthopaedic Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences)

日本関節病学会は1973年にリウマチ外科研究会として発足、主にリウマチ外科学を専門とする整形外科医が全国から集まり、1981年からは日本リウマチ・関節外科学会として発展してきた学会です。2008年にはさらに広く関節病の基礎から臨床までを幅広く討議する場として関節病学会として改称されました。

岡山大学整形外科の同門では第8回と第19回を山本純己先生が、第28回を井上一先生が会長として学会を開催しています。当教室では初代教授である児玉俊夫先生以来、リウマチ性疾患の診療には特に注力してきた歴史があり、本学会の準備・運営にも教室の全ての診療グループで協力して臨みました。

会期は11月9日(金)・10日(土)の二日間でしたが、天候にも比較的恵まれ多くの参加者(482名)を集めることができました。毎回のことながら岡山コンベンションセンターの良好なアクセスは遠方から参加

される先生方には大変好評なようです。また、今年の岡山は豪雨災害のニュースで全国的に有名となっており、各地の先生方から心配やお見舞いのお言葉を頂きました。しかし過度な自粛は復興の妨げとなるともいわれておりますので、初日に行われた全員懇親会では地元出身有名人も登場する舞台で盛り上がり、熱気あふれる時間を過ごしました。

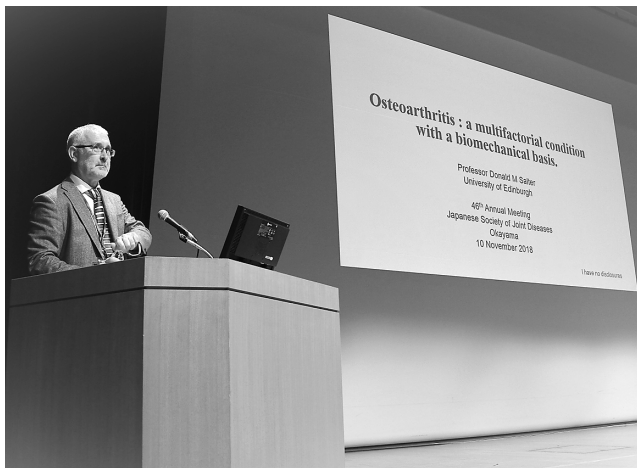
学会を開催するにあたり、各種関節病疾患に対して、特に若い整形外科医に積極的に挑戦していただきたいという願いを込めて、学会テーマを『関節疾患への挑戦—現状と未来へのメッセージ—』としました。そのかいあってか40歳未満を条件とした学会奨励賞にも優秀な演題が多数応募されました。主題、一般演題と合わせて146題の演題が集まり、9つのシンポジウムに39題の演題、5つの教育研修講演、ランチョンセミナー・モーニングセミナー、コメディカルセッションも開催



教室スタッフ

し、6つの会場をフル回転させることになりました。シンポジウムでは関節リウマチ、膝関節、股関節、上肢、下肢（足部）などの関節部位ごとに、あるいは人工関節感染や関節近傍腫瘍などの困難な状況に対する治療について、専門的な議論が交わされました。さらに、スポンサードシンポジウムでは「早期 OA の評価と治療介入のタイミング」として毎回継続されているテーマを発展させた内容で討論して頂きました。会長推薦実践講座では「post-traumatic OA」について整形外科関連各学会からの推薦を得て御講演頂きました。

特別講演では、東邦大学名誉教授の勝呂徹先生に人工膝関節置換術について、また大阪警察病院の越智隆弘先生にナース様細胞に関する基礎研究について、そ



Donald M. Salter 先生

れぞれ先生方のライフワークとも言える内容で熱弁をふるって頂きました。さらに海外招待講演では、手外科領域で世界的に有名なミシガン大学の Kevin C. Chung 先生にリウマチ手の再建手術について最新の知見を、軟骨の病理の世界的権威であるエディンバラ大学の Donald M. Salter 先生には変形性膝関節症の病理について生体力学的なメカニズムを詳細に解説して頂きました。いずれも御高名な先生方であり、同門会員や関係者の協力があってこそ実現した貴重な機会でした。

整形外科でも、近年では専門領域の細分化が進んでいます。本学会は「関節病」という複数領域を跨ぐ横断的な領域が対象となっており、自分の専門領域以外の先生方と交流する貴重な機会となっていると感じました。今回の学会開催にあたってご協力、ご指導いただいた先生方に深謝申し上げます。また、西田圭一郎准教授をリーダーとする当教室のリウマチ・関節班の多大な協力を頂きました。最後に、日本関節病学会の今後さらなる発展を祈念して学会報告とさせていただきます。

（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

運動器医療材料開発講座 那須義久 記）

平成30年12月28日受稿

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

電話：086-235-7273 Fax：086-223-9727

E-mail: nasu-y@flute.ocn.ne.jp